

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第126号)

玉野市立図書館のご紹介

平成29年4月1日、市内中心地のショッピングモール2階に『玉野市立図書館・中央公民館』として移転リニューアル開館しました。約4,200㎡に及ぶ図書館内に、ギャラリー・研修室・料理実習室・和室などの公民館機能が点在する、全国的にも珍しい“図書館と公民館が融合した施設”です。蔵書数は約17万冊、用途に合わせた多数の閲覧席とWi-Fi環境も整備しています。

■まちの賑わい創出拠点として

『玉野市立図書館・中央公民館』は、ショッピングモール「天満屋ハピータウン・メルカ」の2階に



[入り口・外観]

位置しています。交通アクセスの良さに加え、多数の無料駐車場やバリアフリー環境の整備、夜9時まで開館時間を延長することなどで、市民と来街者が行き交う交流拠点として、新たな賑わいを創りだしています。開館後1年余りとなる平成30年6月には通算50万人目の来館者をお迎えし、毎日多くの利用者の方で賑わっています。

■「つどう」「まなぶ」「むすぶ」

館内に点在する公民館諸室は、半ばガラス張りになっており、図書館・公民館お互いの利用者が興味を持ち、知的好奇心を高めていくことに役立っています。市民の皆様の作品発表の場である「ギャラリー」や、玉野市出身の著名人の紹介等のシティプロモーションをおこなう「たまのミュージアム」の他、

和室や防音室も館内に併設しています。

■誰もが訪れたい施設へ

開館記念講演での作家・荒俣宏先生が評された言葉をお借りし、“好きな本と出会うため、誰もが気軽に、そしていつでも訪れたい施設”を目標としています。IC機器の導入により、カウンターでお待ちいただいたり、手続きをしたりすることなく、返却・貸出・予約本の受取りができます。また、「おはなしのへや」や「ママともコーナー」、学習室、多数の閲覧席の他、自由にお使いいただける書籍消毒機や室内ビオトープ、デジタルサイネージなどを整備し、皆様が気軽にそして心地よく利用いただける施設を目指しています。



[児童フロア]

玉野市は豊かな瀬戸内の海と美しい島々に生まれ、歴史を刻んできました。青色を基調とした広大な図書館スペースは瀬戸内の海を、読書スペース、研修室などは海に浮かぶ島々を、そしてフロアを行き交う人々や情報は船をイメージしています。これまでの図書館・公民館の枠を超え、ここから人・文化・情報が広がり、2つの施設の利用者が交流を深める身近な知の拠点となることを、また市民のみなさまに愛される賑わいの場となることを願ってやみません。



[エントランス・総合カウンター]

(玉野市立図書館・中央公民館 正子敦司)

建部町図書館はディーブ？！

直営の瀬戸内市、CCCの高梁市、TRCの玉野市と話題の図書館が次々と開館し本県の図書館界は活気づいています。そうした中、小さな図書館が岡山市の最北端に誕生しました。

平成30年5月、北保健センター建部分館の1階に移転開館した当館は、国道からも福渡駅からも近いのに分かりにくいディーブな図書館です。また、岡山市と合併した他町の図書館はいずれも市立図書館のネットワークを生かし、個人別貸出冊数等は倍増していますが、当館は足踏み状態、深く潜行したままのディーブな図書館なのです。しかし、新装

なった館内に足を踏み入ると、部屋全体が見通せる明るく開放的な雰囲気



[明るく開放的な館内]

“隠れ家”の趣です。これもディーブ？

それもそのはず、約7千万円かけて事務室だった場所を図書館に大改造したのですから。費用対効果から言えば、かけた費用に見合う効果が出るようにしなければならないのは当然です。保育園や小中学校は遠く、近所はさびれた商店街だと立地条件に変化はありませんが、今回の移転をスプリングボードにしたいと考えています。蔵書数は2万冊にも及びませんが、“岡山市まるごと図書館”なので気にしません。まずは、地元の人がちょっと立ち寄りたくなる図書館を目指していますが、そのためには本よりもまず人。ホスピタリティ、おもてなしの気持ちを前面に出して、来館者数増、貸出冊数増につなげていきます。

“図書館は人なり”です。

(岡山市立建部町図書館 杉山良暢)

美咲町立中央図書館 開館10周年イベント

美咲町立中央図書館は、旧厚生小学校を改築し平成19年に開館しました。10周年を迎えた昨年度は特別イベントを行い、利用者の皆様と一緒にお祝いしました。

■図書館の窓をイラストでかざろう (ウインドウマーキング)

図書館1階の窓をかざるため、利用者カードをお持ちの、中学生以下の方を対象にイラストを募集しました。その中から優秀作に選ばれた6枚を、



[1階窓ガラス]

「中央図書館」の文字と一緒にシート状にして貼りました。イラストが採用された子どもたちやそのご家族はもちろん、来館された皆様にも好評で興味深そうに眺めてくださっています。

■10歳までに読みたい本100冊

開館10周年を機に設置した書架に、「10歳までに読みたい本100冊」と題して選んだ絵本を100冊並べました。そして希望者にその絵本をリストにした読書手帳を配布し、読んだ冊数に応じてもらえるミニプレゼントも用意しました。子どもだけでなく大人にも反響があり、親子で一緒に100冊読破を目指されている方もいらっしゃいます。

読書手帳の配布は終了しましたが、絵本は引き続き並べているので、この機会に普段は選ばないような絵本もたくさん読んでいただきたいです。



[ミニプレゼント]

(美咲町立中央図書館 古玉瑞穂)

津山市立図書館開館40周年記念事業 図書館総合展 2018 フォーラムイン津山

■図書館総合展 2018 フォーラムイン津山 を開催しました

平成30年5月19日(土) 美作学園創立100周年記念館において「図書館総合展 2018 フォーラムイン津山」を開催しました。このフォーラムは毎年横浜で開催されている「図書館総合展」(図書館総合展運営委員会主催)の地域開催として年間3か所程度、国内各地で開催されるものです。当館の開館40周年記念事業として、地元に向けては全国の図書館の状況を、また全国に向けては津山の魅力を発信したいと考えて誘致しました。当館としては初めての全国規模の事業です。



[パネルディスカッションの様子]

■交流と発信と

フォーラム参加者は170人。行政説明や基調講演、協賛企業のプレゼンテーションを通して現在の図書館の状況を、またパネルディスカッションでは各図書館の取り組みとともに、当館と美作大学図書館、津山高専図書館の「三館連携」、市内の企業と共同開発中のサテライト貸出システムを発表させていただきました。懇親会には80人、関連事業には延べ190人に御参加いただき、図書館主催のミニ観光、オープンデータソンも好評をいただきました。

■多くの方の力をお借りして

開催に当たって美作大学図書館の皆様には準備段階から当日まで全面的に御協力いただきました。また県内の図書館関係者にボランティアとして来場者案内に御協力いただき、さらに津山高専図書館の皆様にも会場運営のお手伝いをしていただきました。フォーラムの翌日には市立図書館があるアルネ・津山周辺で本の街津山を発信しようということで関係者が準備を重ね、津山まちなかカレッジ(アルネ・津山4階)では「まちライブラリー」の立ち上げイベントを、また地域のイベントなど多彩な催しを開催していただきました。本当にたくさんの方々に関わっていただいた2日間でした。

テーマ「地域活性化に挑む図書館」

第一部 「岐路に立つ図書館～社会教育とまちづくりの間で」

行政説明 丹野 史教氏(文部科学省生涯学習政策局社会教育課 課長補佐)

基調講演 糸賀 雅児氏(慶應義塾大学名誉教授)

第二部 協賛企業プレゼンテーション

第三部 パネルディスカッション

「地域活性化に挑む図書館」

男木島図書館 額賀 順子氏

津山市立図書館 大河原信子氏

岡山県立図書館 東根さやか氏

懇親会 津山国際ホテル

関連事業(5月19日～20日)

①美作大学図書館見学ツアー

②津山市立図書館見学ツアー

③津山市内ミニ観光

④オープンデータソン 2018in 津山

⑤津山まちなかカレッジ植本祭

⑥山下六軒～本のイベント～

(津山市立図書館 大河原信子)

岡山市立図書館

岡山市立図書館では、平成24年3月からFacebookとTwitterの運用を開始しました。現在は中央図書館と西大寺緑花公園緑の図書室、そして幸町図書館の3館が、SNSによる情報発信を行っています。

中央図書館では、開催した行事の様子や展示コーナーの紹介などをFacebookに、行事予告や本の紹介、ちょっとした日常の一コマなどをTwitterに投稿しています。岡山大空襲のあった6月29日に、中央図書館で開催していた「徴兵制」の展示について紹介したところ、とてもたくさんの反響をいただいたり、7月に開催した子どもの行事を紹介した記事へ、参加された方が感想のコメントをくださったりと、こちらの発信した情報が確かに届いているという実感は、日々の業務のやりがいにもつながります。

普段図書館を利用される方はもちろん、利用されない方にも情報が届き、また反応もいただけるところが、SNSの利点です。これからも図書館の魅力を伝えるため、積極的に多彩な情報を発信していきたいと思えます。



[Facebook ページの様子]

(岡山市立中央図書館 太田紀子)



赤磐市立中央図書館

赤磐市立中央図書館は、多くの方に図書館をもっと便利で身近に感じてもらいたいと、平成28年8月からFacebookを始めました。ホームページや図書館だよりでは伝えきれない図書館のお役立ち情報や、「ゆるいけれどためになる」情報を発信中です。

イベントの情報、学校の図書館見学、展示コーナーの紹介や季節ごとの館内装飾の変更など、日々のちょっとしたできごとやお役立ち情報を紹介したところ、少しずつフォロワーや「いいね！」が増えてきました。Facebookの登録がなくても、図書館ホームページから閲覧することができますので、ぜひのぞいてみてください。



[Facebook ページの様子]

「図書館と利用者がもっとつながりたい！」という思いを胸に、今年度はフォロワー100人と週1～2回の投稿を目標に情報発信しています。たくさんの「いいね！」と「フォロー」をお待ちしています。

(赤磐市立中央図書館 中務貴子)

奈義町立図書館

奈義町立図書館では、平成30年4月からFacebookの運用を開始し、おすすめの本、行事、サービスの紹介など、図書館からの最新情報を日々配信しています。

これまでも、町内の方には防災行政無線や町広報紙による広報を行ってきましたが、町外の方には情報が届きにくく、また、ホームページは、個別の利用者に情報が届きにくい弱点がありました。

SNSの強みは、速報性が高く、個別の利用者に情報を届けやすいところにあると考えています。

最近では、SNSでの告知がきっかけでイベントに参加した、という利用者も増えつつあり、地道で継続的な情報発信の効果が徐々に表れ始めているように感じています。

町外の方が参加できるイベント情報なども積極的に発信していきたいと考えていますので、皆さまのフォローをお待ちしています。

(奈義町立図書館 松村謙)



[Facebook ページの様子]

情報発信について



岡山県立図書館

いささか逆説的になりますが、SNSを運用する上で、一番大切なものは“コンテンツ”、つまり中身だという話を聞き、担当していて全くそのとおりだと感じています。

岡山県立図書館では、平成24年からFacebook、Twitterを運用していますが、SNSは単なるツールに過ぎず、魅力に乏しいコンテンツをいくら発信しても、読み手（フォロワー）の心に届くはずはありません。

昨年度、館内研究グループの提案を受け、「部門から要請があれば投稿する」から、「広報戦略として積極的に投稿する」に方針転換し、広報担当の業務に位置付けています。

一方で、図書館など公的機関のアカウントでは、読み手の興味関心を引くような表現が難しく、ホームページ等とさほど変わらない、お役所的なものとなりがちという悩みもよく聞かれます。

そうした制約の中でも、特に若い世代を意識し、一目で分かりやすく、そして、親しみやすい表現を用い、ときにウラ話的な話題も織り交ぜながら、例えば展示ばかりが続くのを避けるなど、読み手を飽きさせない投稿に努めています。テクニカルなことは、関連書籍にも紹介されていますが、こうした心掛け、工夫こそがSNSの効果的な活用につながるものと信じ、“作文”に悩んでいる日々です。

(岡山県立図書館 竹本庸)



[Facebook ページの様子]

ノートルダム清心女子大学附属図書館
— 図書館のお宝紹介 (第3回) —

『死海写本 (The Dead Sea scrolls)』というものをご存知でしょうか。



[イザヤ書]

本学は、建学の精神であるキリスト教精神にもとづき、「真・善・美」の追求という、普遍的な真理の学問的探求と教育実践を教育理念とするリベラル・アーツ・カレッジです。教育理念具現化のために、図書館では関係資料の収集、常設展示を行っており、『死海写本』(ファクシミリ版)をロビーに展示しています。残念ながら、当館は一般公開をしていますが、大学祭などの催しの際にはご覧になれますので、この『死海写本』について紹介します。当館では、昭和54年に国内で限定出版された55部のファクシミリ版の一つを所蔵しています。

■世紀の大発見

『死海写本』(『死海文書』ともいわれる。)が見つかったのは、昭和22年頃、場所は死海近くのクムラン洞窟の前です。

遊牧民の少年が群れから離れた羊を探して洞窟内に石を投げ入れたところ、何かが割れる音がしました。少年が洞窟に入っていくと羊の姿はなく、そこには壺の破片や布に包まれた巻物、奇妙な文字が書かれた写本の断片が多数ありました。価値がよくわからないまま、断片の一部を持ち帰り遊牧を続けた少年はベツレヘムの市場へ行った際にその断片を商人に売りました。商人

はその後、エルサレムにあるシリア教会の聖マルコ修道院に断片を持って行きます。ここから長い年月を経て写本の調査がおこなわれ、徐々に価値が明らかになっていったのでした。

ヘブライ語聖書(旧約聖書)の写本と言えば、紀元後十一世紀初頭に記されたものが最古でしたが、クムラン洞窟で発見された聖書の写本はなんとそれよりもさらに千年以上古かったのです。紀元前2、3世紀から紀元前1世紀、正統派ユダヤ教から分離し荒野で集団生活を営んだクムラン教団が羊皮紙に書き残し麻布で包み、素焼きの壺に入れ、蓋をして洞窟に保管したものです。原本がないといわれている旧約聖書の原本ではないかといわれています。

■時空を超えて

当館所蔵のファクシミリ版は、このクムラン洞窟で発見された写本の断片を忠実に再現したものです。「イザヤ書」「共同体の規律」「ハバクク書注解」の3本の巻物は、原寸大の羊皮紙にプリントされており、巻物が納められていた素焼きの壺の大きさは直径約20cm、高さは約45cmあります。



[1階ロビーにて常設展示]

現在、この壺や巻物は、紀元前へ時空を超えて私たちを誘っています。

参考文献:『死海文書 聖書誕生の謎』『ビジュアル版死海文書大百科』『死海文書 Q&A』

ファクシミリ版: 現物を忠実に再現した複製版のこと
(ノートルダム清心女子大学附属図書館 山本雅子)

県図協セミナー（第1回）に参加して

「本がつなぐ人とまち」

期日：平成30年6月4日（月） 参加者：50名
 講師：吉成 信夫氏（岐阜市立中央図書館長）

今回のセミナーは、地域の図書館としての役割について考える機会として、平成27年7月に開館した岐阜市立中央図書館の取り組みについて、館長を務める吉成氏にお話しいただきました。

開館3ヶ月前から全スタッフで、図書館としてのあり方やそれぞれの本への思いを形にし、情報を共有する作業をどのようにして取り組んできたかについてのお話から、「子どもの声は未来の声」という子どもの育成や子どもたちの育ちを末永く見守る図書館としての姿勢、そして、図書館がまちとつながっていくための試みとしての「子ども司書制度」や、市民が本と出会い、すすめるための場を館内に設置するだけでなく、図書館という場を飛び出して、自分たちでもやってみようという機会を手助けする「まちライブラリアン養成講座」の設置など…全ては紹介しきれませんが非常にわくわくさせられる活動を聞くことができました。館長ご自身が非常にフットワークが軽く動かれているのはもちろんですが、司書の存在感も一つ一つの取り組みの中に垣間見えたのもとても印象に残りました。図書館側一方向ではなく、いかに巻き込んでいくかを念頭にした、本と人をつなぐ仕掛けが、人と人同士をつなぐ仕掛けになり、図書館では更なる利用者層の掘り起こしにつながって



[県図協セミナーの様子]

いるとともに、これらの活動によって生まれたコミュニティの創出がまちづくりの活性化につながっている姿を感じることができました。

(岡山県立図書館 木下 歩)

第93回教養講座報告

「えほんのひろばをやってみよう！」

期日：平成30年8月9日（木） 参加者：60名
 講師：加藤 啓子氏（絵本あれこれ研究家）

石原恵以子氏（岡山市立中央図書館司書 絵本専門士）

「これまでとちょっと違う絵本の読み方、届け方」と題しての講演と段ボールを使った面展台的ワークショップということで、とても楽しみにしていた講座です。

絵本の表紙を見せて並べ、子どもたちが本を選ぶ「えほんのひろば」について、魅力的な絵本や初心者にもわかりやすいマニュアルの紹介だけでなく、実際の子どもの様子も詳しく



[教養講座の様子]

お聞きしました。絵本や写真集をどのような配慮のもと選んでいるのか、どう並べ、どのような空間

づくりをしているのか、たくさんのコツを教えてくださいました。

そして、「えほんのひろば」に欠くことのできない面展台を実際に作るワークショップでは、あらかじめ下準備をしてくださっていたので、2人1組でさくさくと作り上げていきました。仕上がった面展台は、希望すれば持ち帰ることができました。私も学校図書館で特設コーナーとして早速使っています。予算がない現場ですが、2台、3台と増やしたいと思っています。

図書委員の生徒たちと一緒に面展台を追加製作するだけでなく、その面展台を使った「えほんのひろば」という楽しい企画ができそうです。子どもたちが自由になれる空間づくりをしていきたいと改めて感じる講座でした。



[教養講座の様子]

(岡山県立興陽高等学校 赤澤扶美子)

事務局からのお知らせ

■理事会・定期総会

平成30年度理事会を5月9日に、定期総会を6月4日に開催しました。当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【平成30年度役員（敬称・役職略）】

会長 (施) 岡山県立図書館 狩屋 幸司
副会長 (施) 岡山市立中央図書館 宮本 嘉彦
〃 (施) 岡山大学附属図書館 今津 勝紀
理事 (施) 倉敷市立中央図書館 吉田 守
〃 (施) 総社市図書館 横田 優子
〃 (施) 倉敷芸術科学大学図書館 時任 英人
〃 (施) 金光図書館 金光 英子
〃 (個) 学校司書 西村 百代
〃 (個) 青年図書館員研修会 佐藤 賢二
〃 (個) JLA代議員 菱川 廣光
監事 (施) 津山市立図書館 小川 健司
〃 (施) 早島町立図書館 坂本満理枝
参与 岡山県教育庁生涯学習課 小見山 晃
〈※ (施) 施設会員、(個) 個人会員の略〉

■本年度の研修

- 県図協セミナー(第2回) 12月19日(予定)
「図書館運営のあり方(仮)」
講師: 田井 郁久雄氏 会場: 岡山県立図書館
- 県図協セミナー(第3回) 1月26日(予定)
「ビブリオバトル全国行脚(仮)」
講師: 谷口 忠大氏
(立命館大学情報理工学部 知能情報学科准教授)
会場: 笠岡市立図書館
- 県図協セミナー(第4回) 2月頃(予定)
「資料保存と修理の実際(仮)」
講師: 岡山県立図書館職員 会場: 岡山県立図書館

■平成30年度企画委員

委員長 草木原圭子(岡山県立図書館)
副委員長 松岡 清夏(岡山市立中央図書館)
委員 奥田 鈴美(倉敷市立中央図書館)
〃 中務 貴子(赤磐市立中央図書館)

- 〃 明賀 剛(浅口市立鴨方図書館)
〃 福島久美子(鏡野町立図書館)
〃 大倉加奈江(美咲町立旭図書館)
〃 遠藤 聡美(中国学園図書館)
〃 山本 雅子(ノートルダム清心女子大学附属図書館)

■県図協セミナー(第1回)、教養講座の資料提供

先に開催されました標記の研修について、資料を御提供しています。研修へ御参加いただけなかった方への御提供も可能ですので、必要な方は事務局まで御連絡ください。

■現在、募集中

- 研修参加助成事業による平成30年度の派遣者を募集しています。
・中国・四国地区図書館地区別研修12月11日(火)~14日(金)
[申込締切: 10月12日(金)]
- 平成31年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。
- 平成33年に協会創立70周年をむかえることになり、記念事業を企画するにあたり意見等の募集をしています。

■ 西日本豪雨により被害に遭われている皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

なお、倉敷市立真備図書館は浸水による被害が甚大なため、当分の間休館します。復旧時期は未定です。

同図書館への寄贈については、直接、倉敷市立図書館にお尋ねください。ただし、現時点ではまだ受け付けられない状況です。受付可能な時期になりましたら、改めてお願いが倉敷市立図書館のホームページに掲載されます。

平成30年9月30日発行
〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30
岡山県立図書館 図書館振興課内
岡山県図書館協会 会長 狩屋 幸司
TEL: 086-224-1286